

第49回 交流会報告

(第49回総会及び第43回講演会ほか)

弘陵造船航空会 新総務担当理事

昭和54年卒 脇屋 元

第49回弘陵造船航空会交流会が、2019年（令和元年）5月25日（土）13:00から横浜国立大学理工学部第二食堂にて開催されました。今回の交流会運営は、事務局のご指導、ご支援の下、総会担当年度のクラス幹事である小口芳生（昭和54年卒）、脇屋 元（昭和54年卒）、池之上晴視（平成31年卒）、中津あかり（平成31年卒）が担当しました。

以下に同交流会の報告を致します。なお、本報告を行うにあたり、交流会の準備・運営に多大なご指導とご支援をいただいた珠久会長、佐伯理事ほか役員・事務局の方々に心より御礼を申し上げます。

1. 開催日時 2019年（令和元年）5月25日（土）13:00～17:30
2. 開催場所 横浜国立大学 理工学部第二食堂
3. 出席者 来賓及び会員 合計59名
4. 第49回総会 13:00～14:00

(1) 逝去者の報告と黙祷

司会を務めた脇屋の開会の辞に続き、昨年の総会以降に事務局が逝去のご連絡を受けた会員26名のお名前等を紹介し、出席者全員で黙祷を捧げました。

(2) 珠久会長挨拶

議事に先立ち、珠久会長から挨拶ありました。その概要は以下のとおりです。

- 弘陵造船航空会は今年も30名を超える会員を迎えた。会員の抱える課題を一步一步解消すべく活動しているが、その一環として昨年8月に地方会員との交流を進化させるべく、四国・丸亀地区を対象に地方での交流活動を新たに開始した。満行准教授のご参加を得て30名規模で活発に交流が行われた。今後もこの活動は継続したい。
- 年2回開催しているクラス幹事会では角前会長より船舶の折損事故の歴史、その原因究明の取組等につきご講演をいただいた。今後も興味の高いテーマを選定するなど工夫をこらして実施していきたい。
- 弘陵賞については、社会の関心の高い地震・津波をテーマに取り上げた中津あかりさんの論文を対象に、賞状と記念メダルを授与した。社会に貢献する論文はとりわけ重要であり、教室の後輩たちの研究の発展を願う。
- 平成30年度プラウド卒業生に鳥養鶴雄氏（昭和28年卒）が選出された。吉岡先生に続く快挙としてともに喜ぶたい。
- 2020年に学部創立100周年、2029年には教室創立100周年を迎える。同窓会は広いジェネレーションの多様な考え方の会員により構成されておりコンセンサスを取ることはなかなか難しいが、課題解決に向けて活動したい。



(3) 来賓ご祝辞

来賓を代表して、横浜国立大学工学研究院・理工学府 研究院長・学府長 梅澤 修様よりご祝辞をいただきました。梅澤様のご祝辞の概要は以下のとおりです。

- 第49回交流会の開催をお祝いする。
- 横浜国立大学理工学部の前身である横浜高等工業学校が創立されてから、2020年に100周年を迎える。それに向けて企画を進めているところであり、ご協力いただきたい。
- 昨年4月に大学院の改組が行われ理工学府が理工学府となったが、問題なく推移している。今年は化学棟の改修が予定されている。
- 学外では今年11月30日に北門から約1kmのところに「羽沢横浜国大駅」が開業し、JR東日本と相鉄線の相互乗り入れが始まる。東急東横線の乗り入れも予定されており、変化を感じ取ってもらいたい。



(4) 平成30年度事業報告及び会計報告

平成30年度事業報告について入江理事より、会計報告について小林理事より、それぞれ説明がありました。また、会計監査報告が加戸監事よりあり、平成30年度事業報告及び会計報告は、承認されました。

(5) 令和元年度事業計画案及び予算案

令和元年度事業計画案について佐伯理事より、また予算案について小林理事より、それぞれ提案が行われ、提案どおり承認されました。

(6) 令和元年度役員人事

珠久会長から、以下の役員人事案が提案され、承認されました。

役 職	氏名 (敬称略)	横浜国立大学卒業年次等
理事・会長	珠久 正憲	昭和45年学部卒業
理事・副会長	阿部 孝三	昭和47年学部卒業
理事・教室代表	岡田 哲男	教授、海洋空間のシステムデザイン教室主任
理事	佐伯愛一郎	昭和50年学部卒業
理事	小林顕太郎	昭和51年学部卒業、昭和53年修士修了、平成元年博士修了
理事 (新任)	脇屋 元	昭和54年学部卒業、昭和56年修士修了
監事	田中満佐人	昭和46年学部卒業
監事	中島 清隆	昭和48年学部卒業

また、これまで理事を務められていた入江康雄氏 (昭和48年卒) には、事務局サポート役として総務アドバイザーへの就任が提案され、あわせて承認されました。

(7) 教室創設100周年に向けて/弘陵賞の対象人数の増員

珠久会長より教室創設100周年となる2029年に向けての取り組みならびに弘陵賞の対象人数の増員 (学部1名→学部・修士各1名) の提案があり、それぞれ承認されました。100周年記念事業に向けての寄付金の積み立てについては、参加者から提案のあったクラウドファンディングにより資金を募ることも含めて検討することとなりました。

(8) 大学（教室）の近況及び弘陵賞推薦報告

岡田教室代表理事から以下のとおり報告が行われました。

① 教室教員について

本年は異動等についてはない。

② 学生の就職状況について

学部卒業生 36 名のうち、19 名が大学院に進学、17 名が就職。就職先は造船・重工 5、プラント・鉄鋼 2、航空宇宙 4、建設 1、その他工業・IT 4、その他 1。また、大学院博士課程前期 23 名のうち 22 名が就職、就職先は造船・重工 2、船級 1、建設・土木 4、海洋 1、航空宇宙 2、自動車・機械 4、その他工業 3、輸送 1、その他 4。

③ 弘陵賞について

2 月 12・13 日に卒業研究審査会が行われ、「津波来襲時における船舶の漂流シミュレーション手法に関する研究－水槽実験及び Oracle Flex によるシミュレーションモデルの構築－」（中津あかりく海上技術安全研究所の指導：福戸淳司客員教授、伊藤博子客員准教授）が弘陵賞を受賞した。

④ 国際交流

昨年度も上海交通大学と横浜国立大学との間で学生の相互交流事業が行われた。7 月 29 日～8 月 10 日に行われた 2 週間派遣プログラムに 10 名、10 月からの 3 カ月派遣プログラムに 3 名、それぞれ本学学生が派遣された。また、留学生受入プログラムとして、12 月からの 3 カ月プログラムに 3 名（上海交通大学）、2 月に開催されたウィンタープログラムに 10 名（上海交通大学ほか）を受け入れた。なお、本件については、弘陵造船航空会から海外渡航助成が行われており、感謝の意が述べられた。

⑤ 高校生向け公開講座

昨年で 12 回目となる高校生向けの公開講座を 7 月 16 日に開催、その後、8 月 25 日に水槽を使用して「ひれ推進コンテスト」を実施した。26 チームが参加した。

⑥ その他の教室関連トピックス

吉識賞受賞（井上義行名誉教授）、映画「アルキメデスの大戦」の監修（村井基彦准教授）、PRADS 2019（委員長：岡田哲男教授、副委員長：川村恭己教授）

(9) 会報第 59 号目次案

会報第 59 号目次案について、入江理事から説明がありました。

以上をもって弘陵造船航空会第 49 回総会は閉会しました。

5. 講演会 14:15～15:30

第 43 回講演会は、平成 30 年度プラウド卒業生に選出された鳥養鶴雄氏（昭和 28 年卒）より「ある卒業生の飛行機雲」と題し、講演をしていただきました。内容は航空機開発の歴史から YS-11 の開発経緯、大学へ望むことなど多岐にわたり、わが国の戦後の航空機開発の貴重なお話をお聴きすることができました。

6. イベント 15:30～16:10

講演会后、現在、シュツットガルト州立歌劇場管弦楽団でご活躍されている深澤麻里様（昭和 52 年卒 深澤正樹様ご令嬢）によるビオラ演奏（お母様のピアノ伴奏）が行われました。ホフマイスターのビオラ協奏曲「第 1 楽章」、バッハの無伴奏バイオリンのためのパルティータ第 2 番より 4 曲を演奏いただいた後、松任谷由実、ビートルズのナンバーも披露していただき、楽しいひと時を過ごしました。



7. 集合写真撮影 16:10~16:20



8. 懇親会 16:20~17:30

懇親会は、食堂ホールで小口氏の司会のもと行われました。珠久会長の挨拶に引き続き、御来賓を代表して名教自然会会長の永井孝雄様のご挨拶ならびに乾杯のご発声でスタートしました。懇親会では旧知の方々との懇談や世代を超えた同窓会ならではの交流があり、学生歌の題名を冠した日本酒「みはるかす」などの飲み物や料理を賞味しながら大いに盛り上がりました。また、本年卒業生会員を代表して、中津あかりさんと池之上晴視君からスピーチをいただきました。

講演会から参加した現役学生が鳥養氏へ質問する光景も見られ、継続的に若い世代が入会していくことにより会がますます活性化することが期待されます。最後に学生歌「みはるかす」を全員で合唱した後、阿部副会長の中締めでお開きとなりました。

